

令和6年度 第2回学校運営協議会 会議録

日時：令和6年度11月20日(水)午前10時00分から午前11時40分

場所：北海道新篠津高等養護学校 視聴覚室

1 開会

【校長挨拶・学校経営状況の説明】

御多用中、御出席いただき感謝します。学校の近況は、今月、学校祭行いました。販売会と時期を分けているため、地域の方や本校を進学先と考える中学生に参観いただくことが少なく、成果として一長一短を感じています。販売会と学校祭が一体となっているのは、高等養護学校の特徴であり長所の一つです。一方で、一日にステージ発表のみとすることで、生徒、職員にゆとりがでるメリットもあります。保護者以外の方々にも多く来校していただくアイデアを考えたいと思います。

3年生は進路先での現場実習が終了。今後、内定連絡が入る流れとなりますが、卒業直前まで可否がわからないこともあります。万が一採用とならなかった場合は、長期休業期間等に再度、現場実習を行うこともあります。

次に、今年度の学校経営構造図のカリキュラムマネジメント等の重点、「地域での販売・納品活動などの充実と模擬株式会社化の検討」の進捗状況について説明します。

今年7月に北海道教育大学札幌校キャンパスで実施された、札幌あいの里高等支援学校の取組「あいcircle」に参加。窯業科が販売活動、ダンス部がステージ発表を行い、多くの観客に見ていただきました。

また、新篠津村「青空まつり」では、今年度から園芸科が加わり販売を行い、販売開始からほどなくして完売となりました。地域で販売するために、在庫量の確保という観点もあるのですが、生産力や授業時数の兼ね合いから、なかなか難しい部分もあります。夜間の部では、コロナ禍が明け、今年は、山車パレードに参加しました。本校開校時は、日曜実施でしたので、寄宿舎に帰舎した生徒が参加しておりましたが、現在は土曜開催にあわせ、参加の方策として部活動の課外指導の位置付けとしました。30名程度の参加があり、生徒の満足度も高く、ステージ発表にはダンス部や合唱部も参加することができ、生徒達にとって貴重な体験の機会となりました。

木工科は、8月に自治センターの駐車場を借り、学科独自で販売会を実施。大盛況で地域の方から称賛の声を多くいただきました。各学科での小回りの利く取り組みも検討を指示しているところです。

道教委主催の特別支援学校の教育活動発表会「ほっこりふれあいプロジェクト」に本校から2学科が参加しました。村外での活動を広げることに取り組んでいるところです。地域の様々なイベントに相乗りさせていただきながら、活発化に向けて取り組みたいと考えております。

12月には、校内販売の新高マルシェを実施します。木工科の自治センターでの販売の際、村内各所にポスター掲示をする中で、診療所の待合室に掲示したところ多くの方々目に留まる効果があったので、引き続き取り組むことに加え、防災無線、新聞折込など、デジタル・アナログ両面を活用し情報発信を図りたいと考えています。

次に、別紙資料にあります、「令和7年度公立特別支援学校配置計画」の概要について説明します。公立学校は、毎年9月に配置計画が示されます。令和7年度、本校は現状のとおりの間口数です。令和8年度は、道央圏11校中、8学級相当の学級増をしなければならない状況が示されています。本校も学級増の可能性があり得る状況です。現在、道教委と各道立特別支援学校で意見交換を行っており、来週には2回目の意見交換が予定されています。校内でも間口増になることを想定し、確認・調整を行っていることをお伝えいたします。

本日は、熟議の場も設けておりますので、学校運営に係り多くのアイデア、御意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。なお、この後、生産技術科のコーヒーを試飲していただく予定ですので、お楽しみいただければと思います。

【質疑】特になし。

2 議事

(1) 次第1の校長挨拶に併せて説明

(2) 現場実習報告

説明者：進路指導主事

今年度、村内の事業所や公的機関の協力を得て現場実習を無事に終えることができました。誠にありがとうございます。資料「令和6年度第2回学校運営協議会説明資料『現場実習報告』」に沿って説明します。

資料項目「1 目標」は表記のとおり。資料項目「2 目的」について、各学年に応じて目的を設定しています。現場実習は、働く力の育成を目的としています。生徒が実際の社会で働く経験を得られるのは現場実習ではなく、実際に働く現場を見て、体験する経験を通して学ぶことがとても重要であると考えています。

現場実習先について、今年度、JA新しのつ機械センター様が新規に御協力いただきました。また、福祉園では、実習した生徒に高い評価をいただくことができました。

年度により生徒の実態に違いがありますが、生徒たちは働く場について知る機会となり、一方で、現場実習を通して生徒のことを地域に知っていただく機会になることとも考えており、このことは共生社会の実現に向けとても重要な視点であり、学校と地域の相互理解を深められる機会でもあると考えているところです。

一方、現場実習の課題として次の点があります。今年度、1学年は定員いっぱいの48名が入学。生徒数の増加にもかかわらず、実習先を多く確保する必要がありました。当別町でも実習を行いました。新篠津村からの公共交通機関がないため、借上バスを利用しています。しかし、物価高の影響から、借上バスの経費負担が大きくなっている状況です。実習期間の費用として最高で16,900円程度が御家庭の負担となるこの現状を課題と捉えています。公共交通機関、徒歩で通える実習先の確保が必要な状況です。各実習先での受け入れ人数の上限もあるため、新規の現場実習先の開拓が必要となっています。

現場実習の実施方法については、引率実習の場合、実習先の方から引率教員が説明や指示を受け、それを教員が生徒に伝える形が多い状況ですが、実際の職場を経験するという観点から、実習先の方から直接生徒に説明、指示をいただくより学習効果が高いと考えます。常時引率の他に巡回型の実習も広げたいと考えています。この後の「熟議」でも、現場実習に係るアイデアをいただけたらと思います。

3年生32名の現場実習は、それぞれの卒業後の進路希望先で単独の実習を実施し、各実習先から受入の可否について連絡をいただいている状況です。1回の現場実習で円滑に決まると良い面もありますが、良い結果とならなかった場合でも、生徒自身が「現時点の力」に気づく機会、自己理解が深まる機会でもあると考えています。

【質疑】

(G委員)

今年春に卒業した生徒は、11月の段階でどのような状況か。在校時の指導に必要な改善点はあるか。

→ 卒後支援として、春と長期休業期間中に巡回。概ね頑張っている状況。多くが職場の戦力となっているとの評価をいただいている。一方で、2名が離職。1名は転居が理由。1名は、人間関係が離職要因。職場とも相談を重ねての結果である。

巡回時にいただく話として、仕事上の技術的な点での指摘はない。仕事への姿勢、意欲面での話を受けることが多く、中でも「勤怠」、「体調管理」、「気持ちのコントロール」での指摘が多い。

3年生の現場実習では、「自己発信」についてよく指摘を受ける。返事や分からないことの質問はできるが、仕事以外の場面で、職場の方々への自己発信、自己開示が少ない。共に働く相手からすると、どのように考えているのかの把握が難しく、本人にとって伝わりやすい表現などの対応に困ることがあると聞いている。職場の人からの助言など言葉掛けが円滑にされるためにも、自己発信があると良いとの話を受けている。

(B委員)

特別支援教育は共生社会の担い手と考えている。さきほどあった現場実習の費用の関係について、イエローシートでのお金を集めるという方法もあるのではないかな。また、現場実習先の課題については、例えば、一か月間試行的に通学をするという形にすると、公共交通機関を実際的に利用する機会となり実践力を高められると思う。

自己発信、自己開示については、大学生も同様の状況。教育実習先から、学生の受け止めに方等について、学生の指導に苦慮しているとの話を受けることがある。わからないと言えない環境に育った学生が多いのではないかなと思う。

(H委員)

実習先について。自治センターでも対応している。確かに、実習は、生徒と先生のやりとりで終わっている。現場実習先から直接評価をもらうことが生徒にとっては有意義な時間となると思う。一日の終わりに評価をいただくようにしておくといいかと思う。

(3) 生産技術科コーヒー試飲

校舎1F 生産技術科実習室で実施

(4) 熟議 議題:「地域とともに発展する学校の在り方」 (2班に分かれて実施)

【1班】

H委員: 単発的な活動から定期的な活動になるよう計画してほしい。自治センターでカフェをしてほしい。

現場実習では、ずっと一緒に仕事はできないが、最後に生徒と一日の反省をし、感想を伝えていきたい。

C委員: 中学生より「村にカフェを作してほしい」という要望が出たことで、使用していない倉庫を改装中。3月頃から夜間は、塾に貸す予定。昼間は、地域コミュニティの場としてカフェを行いたい。昼は、生徒がカフェを開き、地域の方が集う。夜は、地域の子ども達やイベントなどで利用するスペースとして活用してほしい。

F委員: このカフェについては、是非実現したい。村として応援、支援をしていきたいと考えている。

A委員: ふれあいの苑では、受託事業で独居高齢者宅の除雪を行っているが若者の手が足りない。除雪を行っている人も高齢なのが実情。これを高等養護の生徒に手伝ってほしい。

K委員: 息子は力仕事であればお手伝い可能です。お仕事頑張れると思います。ぜひ、カフェを…。

《班内 意見交流》

- ・飲食店 生徒・地域で共同運営。昼は生徒、夜は地域の方。
- ・学校の中にカフェを作ってください。(毎週金曜日の10:00~11:00とか)
- ・定期的に自治センターでカフェをやってください。
- ・「カフェ」おいしいコーヒーを世間に広げる。
- ・コーヒーカフェは是非実現させよう。村として応援支援検討!
- ・地域のコミュニティの場をつくり、いろんな活動報告、販売を通じて生徒とも地域の方も知り合うこと。
- ・空き店舗を活用しての実習品販売。
- ・販売会を増やす。たくさん売る。
- ・使っていない畑を使用して本校の生徒が作物を育てる。
- ・米を使って新商品を販売(村とコラボ)。
- ・力仕事のお手伝い。雪かきのお手伝い。
- ・新たな実習先を…。
- ・事業所見学。
- ・村民により広く生徒の活動を知ってもらうために公共施設内に活動写真などを掲示。
- ・生徒の作品を自治センターに展示。郷土芸術祭にも参加してください。
- ・単発的な取り組みから定期的な取り組みへ。最後に生徒が直接褒められる場面を作りたい。
- ・イベントの際に各関係機関の皆様と一緒に活動(人手不足解消。コミュニティのつながりが強くなる)
- ・学校開放の取り組みの工夫を。作業学習の見学、体験。学校給食体験などで村民が興味を持てるように。
- ・村の人に来てもらって作業体験。
- ・先生たちに講演会をお願いしたい。(体験会も)
- ・教員が講師でお話したい。(特別支援教育、障害者支援)・村の各所にテーマの絵をデザインし掲示したい。
- ・保育園で「読み聞かせ」生徒がしたい。・議会で生徒がプレゼンしたい。・村中を掃除したい。・駐車場にラインを引きたい。

【2班】

D委員：地域活動への参加。青空祭り、学校祭の宣伝、製品販売の時間を長めにする。

高等養護学校職員の技術の活用。

校 長：特別支援学校は、一般の方は、どのような学びをしているか知る機会がないため見学をしてもらい知ってもらうことが必要。

G委員：寄宿舎でモルック大会をしてはどうか、村でも行なった。

小さい子との交流 地域の保育所との交流。

H委員：支援級との交流、小学校、中学校との交流があると良い、

高等養護学校と交流することで、学校の認知と生徒の実態について知ることができる。

校 長：開校当時は地域と交流をしていた。コロナで中断。復活しようとしても、教育内容が肥大し、中学校も時間がない。

校長間で、中学校の生徒に職場体験で本校に体験に来ることも効果があるのではと共有をしている。

H委員：職業学科に進学したいという保護者もいると思うので、進学希望があれば対応できるようにできたらいいかもしれない。

G委員：高等養護へ進学後、その先に進学を視野にしている保護者もいるのではないかな。

校 長：本校は、小中学校と違い、知的障害の学習内容を取り扱っており、高等学校と同等とはならない。大学進学については、高卒認定試験を経て入学するパターンはあり得る。推薦には高校では評定があるが、特別支援学校では教育課程の違いがあり当てはまらないため独自に相談をすることが必要となる。

《班内 意見交流》

- ・地域に持って知ってもらうことが必要
- ・生徒、職員が地域に出向く。また、地域の方々に学校に来てもらい知る機会を設ける。
- ・啓発活動。演劇部公演を年2回などの公開。
- ・教員のなり手が減っている。学校行事の案内を大学に、大学から学生に周知することで一助となると考える。
- ・地域資源の活用。
- ・学習活動に企のオフグリッド方法(企業と連携して)の活用。
- ・天文台の利用。
- ・SDGsの観点。教育活動に取り組んでいる。
- ・イエローレシートの活用。
- ・村の企業で、木材会社は、事業を知って欲しいというニーズがある。
- ・様々な職種を村内で見学できると良いかもしれない。1学年で行えると良い。
- ・文教大学でモルック大会が行われた。木工科で製品とするのはどうか。

3 閉会

熟議では、多くの意見、アイデアを御発言いただき誠にありがとうございます。

アイデアは、皆で出し合うと発想が広がると考えています。場の共有、活動の共有、感動の共有ができるように進めていきます。

今週末は、卓球部が村内の大会に出場、また、演劇部が自治センターで公演を予定しています。今後とも、地域での活動に組みますので、どうぞよろしくお願いいたします。